

## 検討に当たっての論点

1. 外国人留学生に対する宿舎支援の在り方

- ・ 留学生宿舎はどのような施設・設備が望ましいか。
- ・ 外国人留学生が民間のアパート等に居住するに当たり、どのような支援が必要か。

## 【第1回会議での主な意見】

- 地域によって公的宿舎に対するニーズに差があるので、国全体として取り組むべきことと、地域によって個別に取り組むべきことを分けて検討することが必要。
- 宿舎の数だけでなく、使い方も重要。短期プログラムによる留学のニーズは高いので、短期留学者が短期で宿舎を借りられるような使い方も検討する必要があるのではないか。

## 【その他考えられる論点】

- 宿舎における留学生の受入れ形態（日本人学生との混住、ルームシェア等）
- 様々な留学形態（長期及び短期等）や留学生の属性（学部・大学院等）毎のニーズに応じた支援の在り方
- 宿舎を設置する場所（土地）の確保
- 宿舎に整備すべき施設や機能（ラウンジ、集会所や交流ホール、学習スペース、家具や寝具等）
- 施設整備の手法（自己資金、PFI等）
- 入居形態（個室、ルームシェア等）
- 文化、宗教の相違への対応
- 賃料の設定

## 2. 外国人留学生と日本人学生等との交流機会提供の在り方

- ・ 留学生宿舎において外国人留学生と日本人学生等の交流を促進するにはどのような支援が必要か。

### 【第1回会議での主な意見】

- 大学が設置する留学生寮の中身が、近年は日本人学生と留学生が共同で生活する場<sub>に</sub>変わってきている。
- 日本人との交流があるかないかで留学生の満足度は大きく異なる。留学生の入居者を多少減らしても日本人学生を入れることで留学生の満足度が高まる。
- 地域住民との交流スペースとして活用することも大事。

### 【その他考えられる論点】

- 日本人学生と外国人留学生との人数比
- 地域住民との交流、共生

## 3. 外国人留学生に対する生活支援の在り方

- ・ 留学生宿舎に居住する外国人留学生に対してどのような生活支援が必要か。

### 【考えられる論点】

- 学習面及び生活面のサポート（RA（レジデンスアシスタント）の配置等）
- 夫婦や家族で来日する留学生の配偶者や子供に対するケア
- 地域社会から孤立させないための仕組み（コーディネーターの配置、留学生が集まれる場所の提供等）
- ゴミ出し等、生活ルールの理解

4. 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が保有する国際交流会館等の活用・処理の方向性

- ・ JASSOが保有する国際交流会館等について、どのように活用すべきか。
- ・ JASSOが保有する国際交流会館等のうち、政策的見地や経済的見地を考慮しつつ、いずれを引き続き保有して活用すべきか。
- ・ 活用が困難な国際交流会館等をどのように処理すべきか。

【第1回会議での主な意見】

- 経済的な効率のみでは測れない価値をどのように捉えるかが重要。
- もともと作る時点で儲けようという目的で作っているわけではないので、採算で議論をすることは適切でないのではないか。
- 今後も留学生宿舎として活用していくということであれば、経済的効率以外のベネフィットも踏まえてどこが運用を担っていくことが適切なのか考えることが必要。
- 入居費については、短期の場合はやや高めに設定するなど、提供形態によって金額を変えることも考えられるのではないか。
- 経済合理性だけで要不要を判断するのではなく、優秀な留学生を受け入れるためのインフラを持つ拠点として、定量的・定性的に見て効果がある所は残すことを考える必要がある。
- 単なる居住の場としてだけでなく、交流の場としてもふさわしいものであれば、経済性だけでは測れない価値があるということになるのではないか。
- 一定の補助をすることで、入居者が増えるのであれば、留学生受入れという目的から見たコストとしてはむしろ効率的と捉えられるのではないか。
- 売却できないものについては、多様な留学生及び日本人学生の交流の場として活用するとともに、留学生を少しでも多く導いて赤字を減らすことを考えるべき。